



岡田遺跡出土の釣手土器について

釣手土器は縄文時代中期後半、甲信地方から関東西南部、東海、北陸地方のみに見られる縄文土器の機種の一つである。浅鉢などの形式が多く取手は上方で連なり円い橋状をなし釣手となるものが多い。釣手部に紐等を通し、懸垂したものと考えられ、スス付着事例によって、灯火具あるいは香炉といった用途が推定される。神奈川県内では 26 点が確認されている（中村 2010）

寒川町では 3 点出土が確認されており、全てが岡田遺跡出土である。

岡田遺跡は、相模川の支流にあたる目久尻川と小出川に挟まれた標高 24m の相模野台地上に所在する遺跡である。昭和 57 年より数回大規模な発掘調査が実施され、縄文時代の集落址や弥生時代の方形周溝墓などが確認されている。特に縄文時代中期の集落は、勝坂式期から加曾利 E 式期の竪穴住居址が 600 軒以上確認されており、未調査部分も合わせると、推定 1,000 軒から 1,500 軒の規模になる可能性があり、県内で最大規模、全国的にみても有数の住居址数を想定しうる遺跡である。

今回指定候補である釣手土器は、縄文時代中期、加曾利 E1 式とされている。これは釣手土器の出現期に近い範囲（第 1 期）の土器と考えられ、同時期の釣手土器は県内でも 3 点確認されているのみである（中村 2010）。出土状態、保存状態も良く、欠損部分も僅かである。また、出土状況、出土位置も把握されている。

釣手土器自体は、県内で 26 点ほど確認されているものの、県内の類例が少ない第 1 期であること、出土・保存状態が良好なこと、出土状況・位置が把握されていること、また、県内最大級の縄文時代の住居址数である、岡田遺跡を代表する土器として、寒川町において貴重な考古資料であり、町指定重要文化財とするにふさわしいものであると考える。

寒川町文化財保護委員会 会長 木村 勇

引用文献

中村耕作「釣手土器の展開過程—造形の継承と変容—」 『史葉 第 3 号』 加藤建設（株） 2010 年

参考文献

『神奈川県高座郡寒川町県営岡田団地内遺跡（第 1 期～第 4 期）発掘調査報告書』 県営岡田団地内遺跡調査団 1987 年

『神奈川県高座郡寒川町岡田遺跡発掘調査報告書』 県営岡田団地内遺跡発掘調査団 1993 年

『高座郡寒川町岡田遺跡発掘調査報告書』 寒川町岡田遺跡発掘調査団：鎌倉遺跡調査会 1999 年

『寒川町史 8 別編考古』 寒川町 1996 年

『発見！巨大集落—大熊仲町遺跡と縄文中期の世界—』 横浜市歴史博物館・（財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 2000 年